

神戸大学 広報誌 [kaze]
Kobe University Public Relations Magazine

Dec. 2017 Vol.10

風

特集1 大学院科学技術イノベーションシジョン研究科 株式会社科学技術アントレプレナーシップ

急成長する大学発ベンチャーが神戸を変え、日本を変える

特集2 神大研究スームアップ

「国際法にはロマンがある」現場主義の国際法学者、南極へ!

特集 1

大学院科学技術イノベーション研究科 株式会社科学技術アントレプレナーシップ

急成長する大学発ベンチャーが神戸を変え、日本を変える

「大学で生まれた研究を事業化し、社会に還元する」ために、神戸大学は教育から大学発ベンチャーの創業期支援までを行う取り組みを始めている。2016年4月に開設された大学院科学技術イノベーション研究科と、ほぼ同時に稼動した株式会社科学技術アントレプレナーシップ(略称:STE社)が連携し、わずか1年半の間にベンチャー3社を設立。研究成果を事業化する意義について、STE社取締役を兼務する同研究科の山本一彦教授と忽那憲治教授に聞いた。



魚住和晃先生と神戸大学

2017年4月設置の国際人間科学部に掲げられた門標(看板)は、魚住和晃名誉教授の揮毫による。魚住先生は、その作品がイギリスの大英博物館にも所蔵されている世界的に著名な書家(号は御山(けいざん))であるとともに、中国書家書法の歴史や日中書法交流史などグローバルな書史研究から科学的な筆跡鑑定まで多岐にわたる学究の人でもある。

1949年生まれ、1977年教育学部国語科書道の専任講師に就き、1992年設置の国際文化学部に移り2010年定年を迎える。学内の門標への揮毫は管見の限りでは1981年の「教育学研究科」が嚆矢であろう。魚住先生の書法的な系譜は中国清朝末期の張裕釗(廉卿)→宮島詠士→上條信山→先生であり、清朝から伝承され日本で開花した魚住先生の書の流儀は、今も神戸大学の多くの場所で、どなたでも気軽に鑑賞することができる。

一例を挙げれば、まず現設の門標では、「国際文化学部」「国際文化学研究科」「発達科学部」「人間発達環境学研究科」「第二学舎」「法学研究科・法学部」「経済経営研究所」「艱貞堂」「附属幼稚園」「附属小学校」「附属中等教育学校」など、他にも2005年建立の石碑「国際文化学部・総合人間科学研究科」、2006年販売開始の神大ブランド純米大吟醸酒「神戸の香」のラベルと化粧箱の揮毫、2013年刊行開始の神大広報誌『風』の題字などがある。なお、今年6月販売開始の新しい神大オリジナルグッズである湯呑みも、魚住先生揮毫の「神戸大学」「真摯・自由・協同」の文字が眼福を与えてくれる。
(大学文書史料室長補佐 野邑 理栄子)



武道場看板「艱貞堂」の揮毫(魚住和晃名誉教授)

Contents

[特集1] 急成長する大学発ベンチャーが神戸を変え、日本を変える	03
[特集2] 神大研究ズームアップ「国際法にはロマンがある」現場主義の国際法学者、南極へ!	08
[神大生の挑戦] 神戸大生の大学生活を豊かにする情報を	12
[KOBE教育] 神戸大学MBA(経営学修士)プログラム	14
[キラリ神大 OG・OB] クロネコキューブ株式会社 取締役クリエイティブディレクター	16
[こんにちは!留学生です] ルーマニアからの留学生/[国際ニュース]	18
[神大発地球] AGLOC—国際農業サークル	20
[アラムナイ]	22
[Mini News]	23

Made in Kobe University

神戸大学発バイオベンチャーを 1年半で3社立ち上げ

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科では、2018年春から博士課程後期課程がスタートする。これは、今後事業化するシード(種)を積極的に開発し、大学発ベンチャーの立ち上げを継続的に推進するための取り組みだ。なぜ今、大学発ベンチャーが必要とされるのか…。

学内の研究をシースとしてイノベーションを起こす

— 新しい研究科だけでなく、会社を作られた理由は？

山本 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科は、理科系の学生に、単なる科学技術上の研究開発だけでなく、その成果を実際に、社会的・経済的な価値につなげる、つまりイノベーションを起こせる能力を身につけてもらうことを目標とする研究科です。いわば、事業を創造するスキルを兼ね備えた理系人材の育成です。

ただし、事業化を実務的にサポートすることは、大学内部の組織だけでは難しい。そこで、ベンチャー企業の創業期支援を行うSTE社という会社と、そこに投資する基金(一

般社団法人神戸大学科学技術アントレプレナーシップ基金)を作り、神戸大学発ベンチャーの投資育成を図る体制を整えました。ゆくゆくはベンチャー企業の価値の一部を配当やキャピタルゲインなどで回収し、基金を通じて大学に還元して、新たな研究開発に生かしてもらえようようにしたい。

— 他大学に同様の取り組みは？

山本 大学がベンチャーキャピタルを作っている例はありますが、私たちの取り組みでは大学に出資を求めません。また、ある程度のベースができた企業に投資するベンチャーキャピタルではなく、事業化のスタート地点から一緒に会社を作るスタンスで関与するシード・アクセラレーターとして機能

— 実際に1年半で3社を立ち上げられた。すごいスピードです。

忽那 もともと神戸大学の先生方が温めていた研究成果があったので、それらを立て続けに事業化してきたんです。当研究科の開設準備は2年前から進めてきました。近藤昭彦研究科長や理系の先生方と会議を重ねる中で、研究のシーズはたくさんあるのに、事業化の面ではスムーズに進んでいないというお話をかなりお聞きしました。そこで、実務畑を歩んでこられた山本先生を招聘し、事業化のスキームを作ってきたという経緯があります。

— 3社(6ページ参照)に対するSTE社の支援内容は？

山本 (株)バイオパレットについては、アメリカのベンチャーキャピタルからの大口の資金調達をアシストしました。(株)シンプロジェンについては、国や大手化学メーカーから知的財産権を集約し、次の段階で大型の資金調達に入ります。バイスポット(株)については、サンスター(株)との資本業務提携のマッチングを進め、ジョイントベンチャーの設立に至りました。3社それぞれ、シードII科学技術の内容によって、支援のあり方が変わります。



忽那 憲治

KUTSUNA Kenji

大学院科学技術イノベーション研究科副研究科長・教授
大学院経営学研究科教授(兼任)
(株)科学技術アントレプレナーシップ 取締役

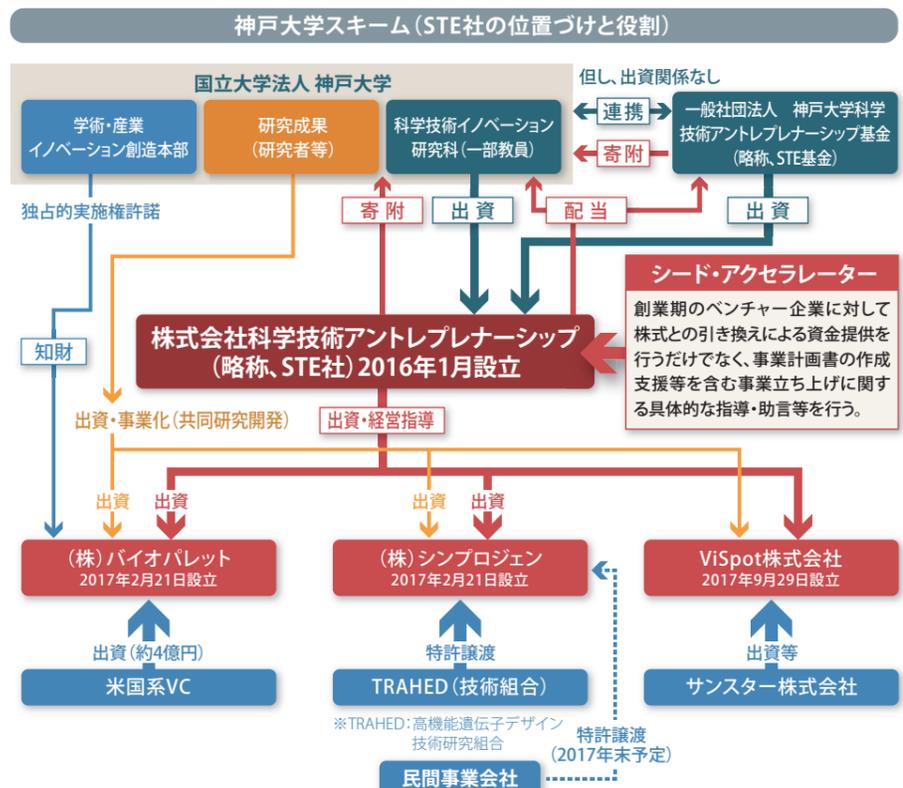
(財)日本証券経済研究所大阪研究所研究員、大阪市立大学経済研究所講師、同助教授、神戸大学大学院経営学研究科助教授、同教授等を歴任。2016年1月に(株)科学技術アントレプレナーシップ取締役に就任(現任)。2016年4月から神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科副研究科長・教授(現任)。2017年4月から京都大学経営管理大学院・みずほ証券寄付講座客員教授。現在に至る。大阪市立大学商学部卒業(1989年)。大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了(1994年)、博士号取得(1997年)。

株式会社科学技術アントレプレナーシップ
(略称:STE社)
Science and Technology Entrepreneurship Co., Ltd.

本社:神戸市灘区
資本金:2,625万円
設立:2016年1月26日

代表取締役 三宅秀昭
profile ▶ 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 客員教授
住友電気工業(株)、PwCコンサルティング(株)(現日本IBM)、独立系ベンチャーキャピタル等を経て、2016年1月に神戸大学発ベンチャーの投資育成等を行う(株)科学技術アントレプレナーシップ代表取締役に就任。現在に至る。慶應義塾大学経済学部卒業(1988年)。

役員
取締役 忽那憲治(神戸大学大学院教授)
取締役 山本一彦(神戸大学大学院教授)
社外取締役 國部克彦(神戸大学大学院教授)
監査役 桑山 斉(弁護士法人御堂筋法律事務所 パートナー弁護士)



山本一彦

YAMAMOTO Kazuhiko

大学院科学技術イノベーション研究科教授
大学院経営学研究科教授(兼任)
(株)科学技術アントレプレナーシップ 取締役



住友電気工業(株)、(株)野村総合研究所(企業財務調査室)を経て、ベンチャー企業などで財務、経営戦略の責任者を経験。1998年に独立系ベンチャーキャピタルを設立し、創業期専門のベンチャーキャピタリストとしてベンチャー企業の投資育成に取り組む一方、企業金融の専門家としてM&A・財務戦略などのコンサルティングを提供。2014年から一橋大学大学院国際企業戦略研究科 非常勤講師(現任)。2016年1月に(株)科学技術アントレプレナーシップ取締役に就任(現任)。2016年4月に神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授に就任(現任)。現在に至る。一橋大学商学部経営学卒業(1988年)。

— 日本の大学では優れた研究開発が行われていますが、それをビジネスにつなげる視点を持った人材が研究者のそばにいるケースが非常に少ないです。現状では日本唯一の取り組みだと思っています。

— 私や忽那先生のような、ベンチャー企業の戦略やファイナンスに通じた人間が会社を作り、大学の「同僚」として事業計画から資金調達までの橋渡しをすれば、イノベーションを起こしやすくなります。



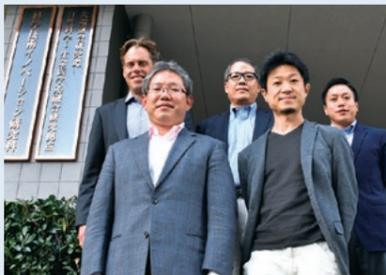


博士後期課程が2018年春開講 シーズの発見から事業化まで一貫支援

世界的な投資企業が 神戸大学発ベンチャーに注目!

2017年10月23日、ARCH Venture Partnersのマネージング・ディレクターを務めるPaul Thirk氏が、Eight Roads Ventures Japanの芦田広樹博士とともに神戸大学を訪問。STE社が支援するベンチャー企業への強い関心を示すとともに、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科とSTE社の取り組みについて、山本教授らと2時間にわたる意見交換を行った。

両社はともにグローバルな投資事業を展開する企業で、ARCH Venture Partnersは先端科学技術分野のシーズや起業初期段階における投資を専門とするベンチャーキャピタルとしては、米国最大級の規模と実績を誇る企業、Eight Roads Ventures Japanは世界最大級の投資会社の日本法人。「これから設立するバイオベンチャーの方向性など、いろいろな話をさせていただいた。こうした超一流の投資家から質の高い資金を多額に入れていただくことは、グローバル競争において重要なポイントになる」と山本教授。今後も継続的に意見交換を行うことを約束したようだ。



企業プロフィール

ARCH Venture Partners (拠点：シカゴ)

約30年の歴史を持つARCH Venture Partnersは、8つのファンドを通じて総額20億ドルの資金を運用。先端科学技術分野のシーズやアーリーステージにおける投資を専門とするベンチャーキャピタルとしては、米国最大級の規模と実績を持つ。大学、国立研究機関や企業研究所等の研究成果を基にしたライフ・サイエンス、フィジカル・サイエンス(半導体、新規素材等)、インフォメーション・テクノロジー分野におけるシーズ、アーリーステージの案件に特化し、これまでに180社以上の投資実績を持つ。

Eight Roads Ventures Japan (東京都港区、代表者：David Milstein)

Eight Roads Venturesは、FIL (フィデリティ・インターナショナル・リミテッド) のプリンシパル投資部門。Eight Roads Ventures Japanは、その日本拠点。香港、北京、上海、ムンバイ、ロンドンにも拠点があり、約20年にわたるローカルな知識とグローバルなネットワークを最大限に活用し、ハンズオンで出資先企業の経営支援を行ってきた。日本では2012年より投資活動を行い、主に革新的なグロースステージの企業へ出資している。

ようになる。これが来年春からの新たな試みになります。
忽那 後期課程の定員は10名。当研究科では前期課程の定員が40名なので、後期課程の定員は4〜5名とするのが普通のバランスですが、その2倍の人数に設定したのも、神戸大学本部と文部科学省の意向と期待を受けた決断です。
——ビジネスプランの指導体制は？
山本 私たちを含め6名の専任教員が指導に当たりますが、学外の実務家を中心にアドバイザーボードを設けています。そこでは、ファイナンス、知的財産権、事業戦略などの専門家を編成して、必要に応じて指導を仰げる体制を作り、学内の指導体制を補完します。超一流の方々10名ほどの編成でスタートし、順次拡充していく予定です。

「グローバル急成長イノベーション・ベンチャー企業」を生み出す
——当面の目標は？
山本 私たちは「グローバル急成長イノベーション・ベンチャー企業」と呼んでいますが、大学発で爆発的に成長するベンチャー企業を作りたいため、そういう企業が出ないと、日本のGDP(国内総生産)は増えません。例えばアメリカで、スタンフォード大学発のベンチャー企業の急成長が引き金になってシリコンバレーが形成され、世界のITイノベーションをリードするようになったように、また、サンディエゴ大学発のベンチャー企業の大成功がサンディエゴをバイオ分野の一大クラスターにしたように、始

まりは大学発ベンチャーの爆発的な成長なんです。そういう会社を私たちの手で生み出し、神戸地域の発展に貢献したい。
忽那 私も同感です。神戸大学の先方の研究をもとに立ち上げたベンチャー企業が世界的な成功を収めることが夢ですし、神戸大学を科学技術アントレプレナーシップの教育・研究・実践における日本の拠点にしていくことも目標の一つです。
山本 先日、ライフサイエンス、バイオ分野の世界的なベンチャーキャピタル2社から、超一流の目利きとして名高いベンチャー支援のプロフェッショナルが私たちを訪ねてくれました(左の記事参照)。神戸大学の取り組みと、STE社が創業支援をしているベンチャー企業に強く興味を持

たれて、次の資金調達時にはぜひ検討させてほしいと仰っていたので、今後も意見交換を続けることで一致しました。私たちの取り組みが、海外の投資家が神戸という都市に注目する契機になり、実際に訪問を受けるまでになったことは、一つの成果です。
——4社目のベンチャーも見えています？
山本 ええ。来年、もう1社の設立を目指して具体的に準備を進めています。ただ、かなり大きな規模を必要とする事業になるので、近藤研究科長と交えて構想を練っているところです。
——最後に、「グローバル急成長イノベーション・ベンチャー企業」と呼べる企業の条件は？
山本 上場時の時価総額100億円以上、これが一つの目標ですね。

**博士課程後期課程で
企業内企業家や独立企業家を育成**
山本 既に積み上がっている研究成果の事業化も進めていきますが、STE社の本来の目的は、これから新たに行われる研究の事業化です。具体的には、来年春から、当研究科で博士課程後期課程がスタートします。こちらでは、社会人経験のある研究開発者を学生として迎えて、理科系の研究を進めてもらいながら、それを事業化するプランを各人に立案してもらいます。最終的には理科系の博士論文と、イノベーション・ストラテジー研究成果報告書というビジネスプランの双方を提出しないと修了できません。
——社会人経験のある研究開発者とは？
山本 例えば企業から派遣され、卒業後に企業に戻って研究を事業化する「企業内企業家」や、企業を退職して独力で事業化する「独立企業家」を目指す方々です。一度社会に出た理科系の研究開発者を入学させて、事業化できるところまでの能力を備えた研究開発者に育成することが後期課程のポリシーであり、文部科学省の期待でもあります。
後期課程の存在によって、シーズの発見から事業化まで、最上流から下流までの全工程をサポートできる

株式会社バイオバレット
本社：神戸市灘区
資本金：200,819,800円
設立：2017年2月21日
代表取締役：村瀬祥子
(取締役として近藤昭彦教授、西田敬二教授、三宅秀昭STE社代表が参画)

事業シーズとなる技術
大学院科学技術イノベーション研究科 西田敬二教授・近藤昭彦教授らの研究成果

事業内容
DNAを切らないゲノム編集技術をコア技術として、医療、創薬、農業、微生物分野での事業開発を目指す。事業開発を推進する基盤として強固な知的財産戦略の構築を進めるとともに、自社開発および企業とのアライアンス(共同開発やライセンスアウト)双方の可能性を視野に入れ、グローバルな事業展開を図る。



株式会社シンプロジェン
本社：神戸市灘区
資本金：1,000万円
設立：2017年2月21日
代表取締役：村瀬祥子
(取締役として近藤昭彦教授、柘植謙爾特命准教授、三宅秀昭STE社代表が参画)

事業シーズとなる技術
大学院科学技術イノベーション研究科 柘植謙爾特命准教授・近藤昭彦教授らの研究成果

事業内容
長鎖DNA合成技術をコア技術として、①長鎖DNA(~50kb)の受託合成事業、②長鎖DNA合成技術を用いた受託微生物育種事業、③長鎖DNAデザインについてのコンサルティング事業を展開し、バイオインダストリー分野、医学・生物学分野での事業開発を目指す。



ViSpot株式会社(バイスポット)
本社：神戸市中央区
資本金：4,000万円(出資比率：神戸大学教員・STE社他50%、サンスター(株)50%)
設立：2017年9月29日
代表取締役：森定栄人(取締役会議長)、小谷知子(社長)
(取締役として神戸大学から山本一彦教授、内田和久特命教授、李仁義特命教授が参画)

事業ビジョン
バイオ医薬品開発支援に資する研究成果の社会実装により、バイオ医薬品産業の発展と持続的成長に貢献する

事業内容
ウイルス安全性評価試験(ウイルスクリアランス試験)受託により、日本のバイオ医薬品開発に貢献する。試験デザイン、試験手順の作成・提出、試験内容・結果・ラボでの機器管理・ウイルス測定等を報告書にまとめて提出するサービス、第三者機関としての品質保証等。





「国際法にはロマンがある」 現場主義の国際法学者、 南極へ!

外交交渉の現場と、 南極という現場

——南極条約の研究に、なぜ現場主義が必要なのでしょう?
南極条約の研究を始めたのは25年ほど前です。南極は大陸ですので、通常の国際法に従えば、どこかの国の領土になっても不思議ではない。実際に領土主張をしている国も複数あるのですが、それを国際法によって「棚上げ」し、南極における科学的調査の自由と国際協力の継続が約束されている。その国際法が南極条約です。
私は南極条約の成立過程を明らかにする研究を始めましたが、当時は資料が手に入りませんでした。なぜなら、国家間の取り決めは外交交渉と、非公開文書をもとに進められるからです。外務省などさまざまなところで資料を探そうちに、南極条約の管理について議論する南極条約協議国会議に出席すれば資料が手に入るというのがわかりました。そこで、政府代表の一員として、2002年頃から出席させてもらっています。
——まさに外交交渉の現場ですね。
ええ。条約は外交交渉の結果です。で、交渉の現場に出ていけば、国際法の成立過程が分かるわけです。自然科学者がフィールドで植物などの研究サンプルを集めるように、条約の交渉現場

「国際社会で生じている国家間の問題を解決し、また国家間の協力を促進していく役割を担っているツール」、国際法をそう説明する柴田明穂・大学院国際協力研究科教授は、2016年11月から翌年3月までの4カ月間、南極を訪れた。その目的は、「南極条約」という国際法が現地でどのように機能しているのかを調べることに。国際法学者が南極観測隊の一員として現地調査を行うこと

で資料を集める、こうして現場主義の国際法研究を始めました。
その後、10年ほど会議に参加しているうちに、南極で研究活動を行っている科学者の方々と話す機会が増えました。彼らから「南極の現場を見てみると、国際法が現地でもどのように機能し、役立っているか、また役立っていないのかは分からない」と指摘され、私自身も関心を持ちました。科学者の皆さんは昭和基地の現場を見てほしい」と言います。そうするには日本の南極観測隊に参加しなければなりません。これまで社会科学者が南極観測隊に参加した前例はありません。結果として、南極観測事業計画の一部を変更してもらい、ようやく実現したのです。
——現地調査の成果は?
それは一冊の本に著そうと、現在執筆中です。ほかにも、現地を見てきた法学者として論文を発表したり、日本政府代表として国際会議で何らかの主張をしていく機会も得られるかもしれません。
南極観光に関わる国際法のあり方
——南極に対する領土主張を棚上げする、そんな合意が、そもそもどうして成立したのでしょうか?
一つには南極の特殊性、つまり、南極における科学活動から得られる

は世界的に見てもほぼ例がなく、文書を読み解くことで研究を進める法学者としては極めて異色の研究方法と言える。それを「現場主義の国際法」と呼び、実践する柴田教授は、南極で何を感じ、何を考えたのか。2015年10月に設置された極域協力研究センターのセンター長として、国際法研究のフィールドを北極にも広げている柴田教授に聞いた。

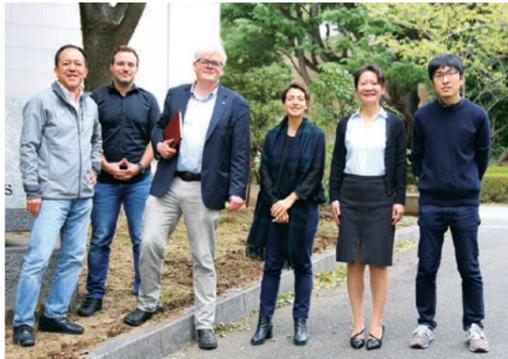


interviewee

柴田 明穂

SHIBATA Akiko

大学院国際協力研究科教授（国際法）
極域協力研究センター(PCRC)センター長
1965年兵庫県生まれ。1990年京都大学法学部卒業。1992年京都大学大学院法学研究科博士前期課程修了。1993年米ニューヨーク大学ロースクール修士課程修了。1995年京都大学大学院法学研究科博士後期課程中退。1995年岡山大学法学部助教授。2005年より現職。外務省、文科省等の業務委員、委員等を多数務める。2013年グルノーブル大学法学部・国際安全保障欧州研究所招聘教授。専門は国際法。



極域協力研究センター（PCRC）では、神戸大学での北極国際法政策研究に関心を有するフィンランド、ノルウェー、スペイン、中国の大学から、日本学術振興会（JSPS）招へい研究者と若手外国人研究員を受け入れています。外国人研究者をも交えたセミナーは、国際協力研究科で国際法を学ぶ学生達にとっても、大きな刺激になっているはずです。

南極条約の研究が 北極域の国際法研究と 響き合う



成果が人類にとって非常に有益であるということが挙げられます。各国の領土主張そのものは否定されていません。ただ、行使しないという合意のもとで南極条約が成立しているのは、科学活動を促進するメリットがそれほど大きいからです。条約の成立には東西冷戦当時の国際社会情勢も影響していますが、軍事的な思惑を含む駆け引きがあるなかでも、南極の平和利用と科学活動については合意ができ、半世紀以上も維持されています。

——観光における南極の価値についても、先生は指摘されています。

南極の風景、あそこまで人間の痕跡がない風景は、人間にとって非常に魅力的です。今も毎年5万人ほどの観光客が南極を訪れており、このブームを抑えることはできないと現地で感じました。しかし、観光活動を規制しようとする議論もあり、ここでは「商業活動だから規制すべき」という理由付けがなされがちです。そうすると、日本が南極で行っている漁業も規制対象となるので、微妙な問題です。

私は観光活動自体は許されるとしても、南極のウィルダネス・バリエーション（原生地域としての価値）の保護や科学活動とのバランスをとるために、一定の規制やルール作りが必要だと思います。日本の昭和基地は、現在は観光コースから外れていますが、今後、南極全域で観光活動が拡大すれば、昭和基地周辺にも観光客が訪れるようになるでしょう。その前に、環境保護や万一の場合の救援体制なども視野に入れた独自のルール作りが必要になります。昭和基地の孤立した地理的条件や、そこに一般の人々を受け入れることの意味合いが、現地を見てきた私には感覚的に分かりますので、現地の状況に適した国際法作りには貢献できると思います。

デリケートな領域でこそ
国際法が機能する

——商業利用については、バイオオペロスベクティング問題にも言及されています。

バイオオペロスベクティングとは、生物資源の中から医薬品などに利用できる遺伝資源を発見することです。たとえばA国の企業がB国で採取した植物から有用な遺伝資源を見出し、商品化して利益を上げた場合に、一定の利益をB国に還元しようという国際法が準備されています。

しかし、南極の場合は前述した領土問題故に複雑です。例えば、日本の昭和基地はノルウェーが領土主張をしているエリアにあります。そこから日本の研究者が遺伝資源を持ち帰り、それを元に日本企業が利益を上げた場合、領土主張をしているノルウェーは何も言うことができないのか、という問題になる。ノルウェー側は「科学活動の自由には同意しているが、商業活動は別だ」と考えるかもしれませんが、「誰が誰に利益を還元するのか」というシステムは南極では作りにくく、実際にルールはできていません。

バイオオペロスベクティング活動そのものを規制する議論もあり、科学的な商業目的かを線引きする法制度の運用は微妙です。私自身は、線

引きの客観的指標になるのは公開性、つまり詳細かつタイムリーに情報の交換と利用を可能にするかどうかだと考えています。

——非常にデリケートなフィールドですね。

南極条約には、領土主張を凍結していることの脆弱性がありますが、脆弱な基盤を関係国がみんなで一生涯懸命守ろうとしているところが大事であって、そこが崩れると全てが台無しになってしまふ。そのような場で国際法が果たす役割は、とても大きいのです。

北極には「北極条約」は
いらない？

——極域協力研究センターでは北極の研究を？

主に北極域における国際法の研究を目的に設置しました。南極が海に囲まれた大陸であるのに対し、北極は大陸に囲まれた海です。北緯66度以北が北極域であり、そこにはロシアやカナダなどの国の一部が含まれます。つまり、北極域の陸地は全てどこかの国の領土なので、適用されるのは海洋法などの一般的な国際法であり、「北極条約」といったものは存在しません。

ただ、センターを設置して分かったのは、北極も南極と同じように特殊であり、科学活動を促進すべき地域であるということです。北極を特別な地域

と見なして、北極に適した国際法を作るべきではないか、南極を実際に見て、そういう発想が私の中に生まれました。南極条約の研究を参考にしながら、北極の特殊性を考慮した国際法があり方を研究してみたい。

——「北極条約」といったものを想定して？

その必要はないと思っています。北極の場合は、北極全体を包括的に規制する条約を作るよりも、科学協力、海洋利用、漁業活動など、個別の問題ごとに適切な条約を作っていく方が良いでしょう。なぜなら、問題ごとに関わってくる国が異なるからです。例えば、北極科学協力協定は北極域に領土を持つ8カ国だけの条約ですが、既に交渉が始まっている北極海中央部における漁業活動に関する条約

となれば、日本も中国も参加できる。つまり、問題ごとにプレイヤーが違ってくるので、中心となる条約があるよりも、個別の条約が連携する体制の方が有効だと思います。

北極科学協力協定の交渉現場には私も参加してきました。こうした会議に出席すると、南極条約関連会議の特殊性がよりよく理解できます。

——北極についても現場主義ですね。この分野に対する学生の関心度は？

興味を示す学生は少なくありませんが、なにぶん南極も北極も遠い世界ですので（苦笑）。できるだけ国際法のロマンを語って学生の関心を深め、私が現場で集めた膨大な資料の研究を引き継いでくれる人材を育てたいですね。



神戸大生の大学生活を豊かにする情報を

神戸大学 KooBee 代表 — 経営学部 経営学科 3年 吉本拓矢

YOSHIMOTO Takuya

神戸大学 KooBee (クービー) は、神戸大生で知らない人はいないのではないかと考えるほどの有名なサークル。冊子「KooBee」の発行や、Webサイト「WeeBee (ウィービー)」の運営などを行っています。立ち上げから8年目を迎えた KooBee。代表の吉本拓矢さんにお話をお聞きます。

— まずは、冊子「KooBee」について教えてください。

「KooBee」は毎年4月に発行しているフリーペーパーです。神戸大学の学部や部活・サークルの紹介、近隣のお店の情報などを主に掲載しています。その他にも、毎月テーマを決めて特集記事を掲載していて、例えば2017年に発行した8号では、「僕らはみんなクラ イマー」というテーマのもと、山の上にある神戸大学への

の通学事情を記事にしたり、著名な方へのインタビューを行ったりしました。フリーペーパーとしては珍しいと思うのですが、200ページ程と、かなりボリュームのある冊子です。

— 中でも、「団体紹介」にかなりページ数を割かれていますね。

「団体紹介」には、非公認団体も含め、神戸大学のほとんど全てへの部活・サークルの情報が掲載されています。もともと「KooBee」が団体紹介の冊子としてスタートしたということがあり、原点であるこのコンテンツ



は特に大切にしています。毎年4月に、「新歓祭」という新入生に神戸大学の部活・サークルを紹介するイベントがあるのですが、そこでもこの冊子を配布して、「こんな団体もあったんだ！」と、新歓祭で回りきれなかった団体を見つけてもらえたらと思っています。

— 「WeeBee」について教えてください。

「WeeBee」は、今年でオープンから5年目を迎えるWebサイトで、冊子ではできないようなことをやりたいなと思って運営しています。日々情報発信を行う「シンタメ」や、毎日1人の神戸大生にその月のお題に回答して

もらう「Shindai365」、「神戸人」にインタビューを行う「情熱取材」、おしゃれな神戸大生のファッションスナップを紹介する「SNAPXSNAP」などを始め、20種類以上のコンテンツがあります。

— かなり手広く活動されていますね！どのような体制で運営されているのですか？

現在メンバーは60名程いるのですが、編集部・クリエイティブ部・営業部・カメラ部・PR部の5つの部門に分かれて活動しています。

冊子の制作の流れでいうと、編集部が毎号のテーマを決めて特集記事の企画を考え、カメラ部のメンバーと一緒に取材に行き、写真撮影と文章の作成をします。その素材をもとに、クリエイティブ部がデザイン・レイアウトを考え、実際の誌面を作成していきます。冊子を発行するにはもちろんお金がかかるので、営業部が近隣の飲食店や企業に出向いて、協賛していただけるところを探します。協賛いただいたお店には、編集部とカメラ部がまた同って記事を作成して、最後に、できあがった冊子をどうやって配布・広報するか、PR部が企画します。Webの方は、基本的に冊子と同じように、編集部が担当

制で記事を書いたり、カメラ部が「SNAPXSNAP」などの写真がメインのコンテンツを作成しています。また、「シンタメ」は「神戸大生が誰でも発信できるキュレーションサイト」というコンセプトになっていて、常に神戸大生のライターを募集しています。部活・サークルの広報でも趣味の話でも何でも良くて、音楽系団体の方に演奏会のPR記事を作成してもらうこともあります。その他には、有志で特別チームを作って動画を作成したり、最近高校生向けに神戸大学の魅力を紹介するコンテンツの作成もしています。

こういった KooBee の様々な活動の広報をPR部が担当していて、TwitterやFacebookの更新なども彼らが行っています。

— イベントを企画されることもあるとか。

そうですね、「イッキ見」といって、新歓祭と同じ時期に、主に音楽系の部活・サークルが一堂に会してパフォーマンスを披露するイベントを行っています。新歓祭は、ブースを出して団体の紹介を行うのですが、会場での演奏は難しく、音楽系の団体はなかなか魅力が伝えられないということもあって、新入生としても、たくさんある団体の全ての演奏を聞きに行くのは難しいので、1日でイッキ見できるいい機会ということで、多数の参加者に来ていただいています。

— KooBeeの代表としては、どのようなことをされていますか。

5部門それぞれのリーダーを集めて会議を行い、KooBee全体の方向性や、未来のことを話し合ったりしていますね。

KooBeeは今年で創立から8年目を迎えます。すごい熱量を

持った先輩たちが始めて育ててくれたおかげで、今 KooBee の認知度もかなり上がり、冊子もしっかりしたクオリティのものが作れるようになりました。良くも悪くも安定期にあると思います。そうした中で、「今まで以上の価値を神戸大生に提供するにはどうしたらいいか」、さらに対象を広げて、「神戸大を目指している高校生に対して何ができるか」といったことを考えています。

— 今後の目標を教えてください。

神戸大にとつて、KooBeeは当たり前前の存在になりつつありますが、ここで満足してはいけないと思っています。神戸大にもっと楽しんでもらって、大学生活をより良くしてもらうために、しっかりと妥協せずに、何をすべきか考えていきたいです。

また、学生の団体なので、毎年メンバーが卒業して入れ替わっていく中で、いかにクオリティを落とさずノウハウを伝えていくかという課題ですね。

KooBeeは個性の強いメンバーが集っているのですが、みんな根底には神戸大にいいものを届けたいとか、楽しんでもらいたいという思いがあります。これからもその思いで一体感を持って、活動していきたいと思っています。



神戸大学 KooBee 総合情報サイト

presented by KooBee

http://weebie1212.com/



■インタビュー学生広報チーム
 [右] 経営学部経営学科 2年 下村 明日香 SHIMOMURA Asuka
 [左] 経営学部経営学科 2年 三島 春香 MISHIMA Haruka

世界トップレベルの経営学を働きながら神戸で学ぶ

神戸大学MBA(経営学修士)プログラム

Graduate School of Business Administration



MBA 教務委員
 大学院経営学研究科 教授
 栗木 契 KURIKI Kei

神戸大学MBAプログラムは、日本で「専門職大学院制度」が導入される10年前の平成元年から開始され、ビジネスパーソンのための大学院レベルの高度な経営学教育において、大きな実績を上げています。その独自の教育プログラムは「神戸方式」と呼ばれ、全国から学生が集まる人気のMBAです。今回、MBA教務委員の先生や在学学生を取材し、プログラムの特色やその目指すところなどについてお聞きしました。

神戸大学MBAプログラムでは、特色として3つの柱を掲げています。

1つ目の柱は、「プロジェクト方式」です。これは、実際にビジネスの現場で直面する課題について、学生相互間および教授陣・学生間で知恵を出し合いながら研究することにより、高度な解決策を探るという教育システムです。

具体的には、教授側が学生6名前後のチームを編成し、全チームに同じ課題を出す「ケースプロジェクト研究」、テーマ設定とチーム編成を学生自身で行う「テーマプロジェクト研究」、数名のゼミの中で個人個人の修士論文を作成する「修士論文プロジェクト」の3つの科目があります。社会人の学生が、仕事の中で実際に直面している問題を持ち寄り、類似の課題を抱える者同士が、既存の研究成果も活用しながら協働して問題を深く分析する。そして、ただ分析するだけではなく、自分たちの次のアクションのための提言に繋げていくというユニークな教育方法です。

2つ目の柱は、「働きながら学ぶ」です。働きながら学ぶことによるメリットとして、まず、具体的な問題をより深く考えられるということがあります。働きながら学んでいる人は、プログラムで取り扱う問題を自分のこととして捉え、具体的な文脈の中で考えることができます。また、現場で起きている現象に理論的な理解を持ち込むことができ、学んだ理論をすぐに実践できます。実践することによって理論の有用性を検証できますし、期待した効果が出ない場合にその理由を考えることで、理論の改善に繋げていくことも可能です。

このように「働きながら学ぶ」ために、神戸大学のMBAは、土曜日の授業だけで、1年半で修了可能なプログラムになっています。欧米のMBAは、平日フルタイムで授業が行われるのが主流なのですが、その方式をそのまま日本に持つてくるのではなく、欧米と比べてキャリアの中断が難しいことが多い日本の状況に合わせ、試行錯誤の上、現在の形に設計されています。これにより、現に企業で責任のあるポジションについているマネージャークラスの人材が、多く在籍していることも特徴です。

3つ目の柱は、「研究に基礎をおく教育」です。これには2つのポイントがあって、1つは、現場の問題について、これまでどのような理論が蓄積されているのか、どのような方法が有効なのかの把握を徹底的に行い、常に最新の研究成果を踏まえた教育を行っているという点です。そしてもう1つは、プロジェクト方式と連動しているのですが、学生がビジネスの現場の問題を教育現場に持ち込むことによって、既存の知識や方法で問題が解決

しえない場合に、新たな理論を考えていく「場」ができていっているという点です。これにより、経営学そのものの発展に役立つ新しいコンセプトの追求に寄与し、また、理論の変化が激しい分野において、学生が自ら学んでいける力を養うことにも成功しています。

また、「グローバルな視野」の育成という点で言うと、本学のMBAプログラムのコア科目は、海外の主要なMBAで標準的に教えられている内容に沿っています。単に英語でディスカッションができる能力というだけではなく、海外のMBA修士の人たちがどのようなロジックやフレームワークで考えているかが理解できるということが、非常に重要だと考えているためです。その他にも、海外のビジネススクールとの交流も行っており、国際的な

教育研究交流拠点を目指しています。例えば英国の提携校であるクランフィールド大学と共同で講義が提供されることもあり、クランフィールド大学MBA生とともに日本研修や英国研修を実施しています。

このような特色を持つ本学のMBAが育成しようとしているのは、独自の文化を背景に発展を遂げた日本企業の経営方式を正確に理解した上で、日本国内はもちろん国際的にも活躍し、日本のビジネス界をリードする人材です。経営学の全般における高度な知識と、特定分野についての深い専門知識を持ち、長期的でグローバルな視野から具体的な経営上の問題を捉え、創造的な解決策を自ら提示して適切な判断を下すことができる、そのような人材を育成できるプログラムとなっています。

MBA 在学生



高倉 美乃里さん
 TAKAKURA Minori
 ベニックスソリューション株式会社
 (川崎重工工業グループ)
 ソリューション本部
 ソリューション企画室企画グループ

私はIT系の企業で、製造業向け基幹システムや業務システムの導入を行う仕事に携わっています。入社当時はSE業務を担当していたのですが、5年経って本部の企画室へ異動になり、そこで大きく業務内容が変わりました。それまでは個別の案件を見て仕事をしていたが、本部全体のモノカネの動きが自分の業務に関わるようになり、この転機が経営学を体系的に学びたいと思ったきっかけです。

また社内の課題を取り扱うにあたり、問題の本質は何か、それをどう解決するか、様々な部署を巻き込むためにはどうすれば良いかといった問題解決のための思考の訓練を実践的にやりたいという想いがありました。そこで、経営や日頃の業務において何らかの問題意識を持った方々と相互的な学びが得られるMBAを目指そうと思いました。

神戸大学のMBAプログラムを選んだ最大の理由は「働きながら学べる」という点です。期間が1年半と他校に比べて短く、土曜日だけで修了でき、キャリアを中断せずに学べる環境が整っていることが魅力的でした。

実際に在籍してみると、ある程度覚悟はしていたのですが、想像以上に過酷でした(笑)。限られた時間の中で仕事も勉強も効率的にこなす必要がでてきますので、結果的に自分の生産性が上がったことは、プラスだと思います。一人で学習をしていたらここまでストイックになれなかったらと思うことがあります。教室で顔を合わせる同級生の存在が、私にとって適度の緊張感と苦しい時の心の支えであると感じています。

現在は、コア科目を学びながら、並行してチームでテーマプロジェクトを進めています。年齢もキャリアバックグラウンドも異なる学生同士で、対等にポジティブな議論ができることは大きな刺激になり、自分の学びが深まっているなど実感しています。

今後の目標は、ここで学んだことを活かしてリーダーを目指していきたいですし、自分が「積極的に学んだりチャレンジしたりすることが成果に繋がる」という良い例になれたらいいと思っています。そのためにも、MBAを志した当初の気持ちを忘れずに、残りの時間を最後まで悔いなく走りきりたいと思います。



MBAプログラム基本設計

コア科目	MBAなら世界どこにおいても学ぶべき標準的内容を初年度土曜日午後の講義で手堅く押さえます。
プロジェクト	神戸大学ならではの醍醐味を学生間の切磋琢磨に見出し人間を磨く場を入学式から修了式まで設けます。
専門科目	コア科目の枠に収まらなかったトピックや研究成果を土曜午前・金曜薄暮に講義します。

「謎解き」を軸に、地方創生を牽引するエンターテインメントを

www.blackcats-cube.com/



マスコットキャラクター「ミケタ」

「謎解きイベント」という言葉を聞いたことはあるでしょうか？
大まかに言うと、「爆弾の仕掛けられた部屋に閉じ込められた！ ドアの解除コードを見つけ出せ！」という指示に従って密室から脱出したり、「この町に眠る秘宝を、古地図を読み解き探し出せ！」という指示に従って町を探索するなど、実際の建物や町で行う体感型ゲームイベントのことです。
そんな「謎解きイベント」を企画・運営しているのが、クロネコキューブ株式会社。その取締役ディレクターである喜多亮介さんにお話を伺いました。



喜多 亮介 KIDA Ryosuke
2007年神戸大学国際文化学部卒。教育関係の企業勤務を経て、2010年大学院国際文化学研究所に入学し、アートマネジメントについて学ぶ。2013年に退学し、クロネコキューブ株式会社を創業。



イベントを企画したのが最初でした。
その企画が好評で、続けて何度かイベントを行っていきうちに、弊社の代表取締役と知り合って、事業化してみないかという話になり、当時「クロネコキューブ」という団体名で行っていたことを、そのままの名前で法人化してやっていくことに決めました。
—— イベントを作る上で、どんなことを大切にされていますか？
新しいイベントを作り続けていくため、常に面白いものを探して体験してというのは、生活の一部としてやっています。普段、街で見た光景からアイデアを思いつくこともありますし、映画やゲームなどからヒントを得ることもあります。ライブイベントも含め、身の回りのものや出来事の全てが企画の材料になります。実際、自分のウェディングパーティーをイベント化して、チケットを販売したこともありますよ(笑)。
あと、大切にしていることは、「現場主義」ですね。謎解きイベントによって地域を活性化させることをミッションの1つにしているのので、ロケやテストプレイで何度も現場を訪れるなど、現場をすごく大事にしています。
—— 今後の目標を教えてください。
2、3ヶ月くらいの短いスパンでどんどん良いものを作り続け、それを積み重ねて自分のレベルを上げ、成長していくというのが一つの目標です。
また、謎解きイベントは、かなり認知度が上がってきましたが、他のコンテンツと比べたらまだまだ知られていないので、一つの確立され

—— クロネコキューブとはどのような会社ですか？

「謎解き」を軸としたイベントの企画・制作・運営を行っています。社員は私を含めて5人で、イベントに応じてその時々で手伝ってくれるスタッフが他に10人くらいいます。
—— 具体的にはどのようなイベントを制作されているのですか？
主に関西圏を中心に、イベントスペースや観光地などでの企画を手がけています。例えば最近では、神戸の北野異人館で、現地を周遊して謎を解き、観光を楽しみながらゲームクリアに必要なものを集めてもらうというイベントを行いました。
場所だけお借りして、弊社が企画から運営まで全て行う場合もありますし、企画の作成のみを行うこともあります。個人の方向けの結婚式やパーティー用の企画や、会社の社内研修向けの企画を制作したりもしています。



たジャンルとして、長く愛されていくことを望みます。飽きられてしまわないためにも、今までのやり方をどんどん壊し、謎解きをベースにした次の体感型イベントの展開を考えていかなければと思っています。
—— 最後に、神大生にメッセージをお願いします。
まず、学生という身分を存分に活かして、枠にとらわれずに色々なことに挑戦し、色々な人に会い、失敗してもいいのでそこから学んで幅広い経験をしてもらいたいです。
また、大学は実ほとても手厚いサービスをしてきています。ただ、今の学生がそれに気づいていないというか、受け身で待っているだけでは何も得ることができないのも大学

—— 普段はどのようにお仕事をされているのですか？
私は、企画段階から当日の運営まで、全体的に関わっています。企画の提案・営業を行ったり、全体のディレクションをしたり。また、イベント中に登場する「謎」やストーリーの制作や、フライヤー・印刷物のデザインをすることもあります。
普段はパソコンとスマホがあれば仕事ができるので、私も社員も、自宅やカフェで仕事をしていることが多いです。
—— なぜクロネコキューブを立ち上げようと思ったのですか？
国際文化学部を卒業後、教育関係の企業で3年程勤めたのですが、他の仕事がしたいと思って会社を辞め、神戸大学に戻って大学院国際文化学研究所に進学しました。大学院では芸術文化論やアートマネジメントを中心に学んでいて、イベントの立ち上げ方も勉強していました。その頃が、ちょうど「脱出ゲーム」や「謎解きゲーム」がやり始めていた頃で、形態を変えて自分でもやってみていと思っていた時に、知り合いの神戸市の職員の方から、市営地下鉄の御崎公園駅の地下にある「御崎車庫基地」で何かイベントをしたいという話をいただいて、そこで謎解きイ

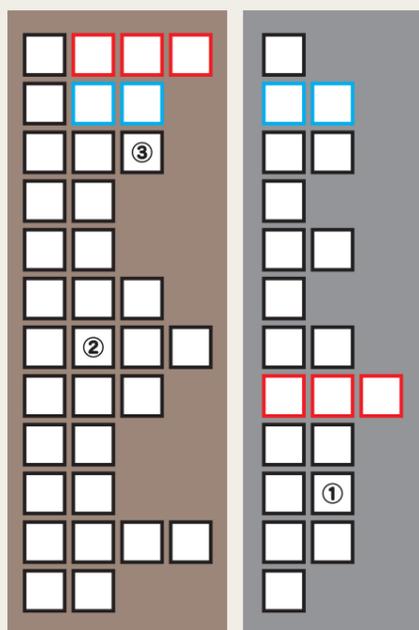
です。自分から積極的に動いて、大学をフル活用して欲しいです。
あとは是非、自分で謎解きイベントを作ってみるといいうのを、興味のある方はやってみて欲しいです。クロネコキューブではインターンも募集していますし、もしこれを仕事にしたいなという方がいれば、是非うちに来てください。もちろん、まだ謎解きイベントを体験したことがない方は、とにかく一度参加してみてくださいね。



■インタビュー学生広報チーム
前田 真我 MAEDA Shingya
経済学部経済学科 2年

例題

①～③が示す食べ物は？
赤いマスと青いマスには同じものが入ります。



答えは右のページから！



<https://www.blackcats-cube.com/kaze-answer/>

Q ルーマニアと日本の違いで驚いたことはありますか？

最初に驚いたのは、みんなが自分のスケジュールをかなり前から細かく立てていることです。ルーマニアだと、友達に「明後日遊ぼう」みたいに誘ってもすぐ遊べるのですが、日本だと、2、3週間前くらいには言うておかないと、予定が入っているからダメと言われることがあります。そんなに前から予定しないといけないんだと驚いたんですけど、私も今では同じように、かなり先まで予定を立てるようになりました（笑）。



自然が多い国



マッシュルームのシチューとママリガ

Q 神戸大学で過ごしてみてどうでしたか？

大学生が勉強できる環境が、すごくしっかり整えられていると思いました。学生が自由に使えるパソコンや自習室がたくさんありますし、キャンパス内でWi-Fiがちゃんと使えるし。静かに過ごせる中庭があったり、景色がいいところなども気に入っています。

Q 将来の夢を教えてください。

卒業後も日本で働こうと思っています。まだはっきり何がしたいかわからないのですが、ジムのインストラクターにも興味があるし、しばらくはそういうスポーツ関係の道に進んでみようかなと思っています。いずれ機会があれば、自分で起業することにも興味があります。日本でもベジタリアン・ヴィーガンがもっと広まってくればいいなと思っていますので、そういうレストランを作ったりするのもしょいかもしれません。

Q 食生活ではどのような違いがありますか？

私は、日本に来てからベジタリアンになったので、そういう面でも食生活が大きく変わりました。ダイエットをしようと思って色々方法を調べていたら、ベジタリアンやヴィーガンの人たちの食事法を知って。最初はなかなかモチベーションが保てなかったのですが、ドキュメンタリーなどで動物性食品を食べること、動物や環境・健康への影響について学ぶうちに、意識が変わりました。より厳格な食事法を行うヴィーガンになりたいと思っているのですが、日本ではなかなか難しいので、卵や牛乳はOKのベジタリアンをしています。他の留学生の友人でも、ベジタリアンやヴィーガンの方がいますよ。

Q 勉強以外では、普段どんなことをしていますか？

日本に来てからジムに通い始めたのですが、それが楽しくて。それで、もっとスポーツやフィットネスの世界に関わりたと思って、最近ジムでバイトを始めました。今はフロントを担当していますが、研修が終わったらインストラクターになることもできるので、それも挑戦してみたいと思っています。

後は、旅行が好きですね。最近だと、鳥取県に行きました。鳥取砂丘や、「江島大橋」というものすごく急勾配の橋や、「水木しげるロード」にも行きました。それから、岐阜県に知り合いがいて、「白川郷」には夏と冬の両方に遊びに行きました。

日本でスポーツの楽しさやベジタリアン・ヴィーガンの食事法をもっと伝えたい

ルーマニアは、王室の夏の離宮として建てられた「ペレシュ城」や、ドラキュラ城として知られる「ブラン城」など、中世の古く美しい建物が多く残っている国。豊かな自然に囲まれていて、ワインがとても有名です。そんなルーマニアからやって来た、アリーナさんにお話をうかがいました。



Rasnovの岩

ルーマニア語：こんにちは！

Bună ziua!

Q 神戸大学に来る前はどのようなことを？

ブカレスト大学の経営学部を卒業して、旅行関係の会社に就職し、1年ほどアジアからヨーロッパに来る旅行者のサポートや、ツアーガイドなどをしていました。その頃、文部科学省の「国費外国人留学生制度」に応募して奨学金をもらい、2015年に研究生として神戸大学に来ました。

Q 神戸大学に来ようと思った理由は？

まず、日本に興味を持ったのは中学生ぐらいの頃で、テレビで日本のアニメを見たのがきっかけでした。最初、何語かわからなかったのですが、響きがとても好きで、この言葉を習ってみたいと思いました。高校から日本語の勉強をまじめに始めて、いつかは日本に来たいと思っていました。そして、研究生として日本の大学に行くためには、研究のテーマを決めて、日本の大学で指導教員になってくれる先生を見つける必要があります。ですが、色々な大学を調べて探してもなかなか見つからなくて。たまたま大阪で日本語の先生をしている知り合いがいて、相談したら、神戸大学の教授を紹介してくれました。その教授は、ルーマニアでも仕事をされたことがある方で、とても不思議な縁だなと思いました。

こんにちは！留学生です

世界各国から来た約1200人の留学生が神戸大学で学んでいます。このコーナーでは、母国の文化や習慣などの話を交えながら、国境を越えて頑張っている留学生にスポットを当てます。



テオドレスクアリーナクリスティナ
Teodorescu Alina Cristina

経営学研究科博士前期課程1年
ルーマニア出身。2015年4月、神戸大学に研究生として来学。2017年4月より、授業と研究指導を全て英語で行う「SESAMIプログラム」の大学院生となり、現在に至る。ベジタリアン。



ルーマニア

東ヨーロッパに位置し、黒海に面する共和制国家。首都はブカレストで、人口は約1970万人。国土の中央をカルパティア山脈が通り、トランシルヴァニア、ワラキア、モルダヴィア、ドブロジャの4つの地方に分かれる。

Visegrad University Studies Grants に採択されました。



神戸大学は、V4諸国（ポーランド、ハンガリー、スロバキア、チェコ）に関連する事象を扱う大学のコースに対する助成である「Visegrad University Studies Grants」に採択され、2017年10月から、EUにおける中・東欧地域の重要性、日本と中・東欧地域との関連、日本における同地域の位置づけについて学ぶコースを開講しました。

本コースは、V4諸国の協定校である、ヤゲウォ大学（ポーランド）、エトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）、コメニウス大学（スロバキア）、カレル大学（チェコ）と協力し、英語／英語及び日本語で行われる、日本の文化・社会・科学技術に関する

• Visegrad Fund

International NEWS 一国際ニュース

教育プログラムである「現代日本プログラム」の一環として開講します。

10月19日には、ポーランド・クラクフにあるヤゲウォ大学において、本コースのキックオフシンポジウムを開催し、関係校との研究交流の拡大を模索しました。

神戸大学は2015年10月にポーランド拠点（クラクフ）を設置し、EUの教育・訓練・青少年・スポーツのための助成プログラム「Erasmus+」への参画など、ヤゲウォ大学をはじめ中・東欧諸国の協定校と活発に国際交流活動を行ってきました。今回の助成金採択は本学の国際活動の成果であり、中東欧諸国における本学の一層のプレゼンス向上が期待されます。



ルーマニアはワインの国

ワイナリーの入り口



家でワイン作り



地域の方からの期待も高まっている



農業を通じて異文化交流を図る



子どもたちとの交流も



農業ボランティア活動を通じて 中山間地域と世界の架け橋に!

神戸大学の農業ボランティアサークル「AGLOC(アグロック)」とは、「Agricultural(農業の)」、「Global(世界的な)」、「Local(地域の)」、「Okano district(岡野地区)」、「Circle(輪)」の頭文字。世界と地域、農業を輪でつなぐという意味が込められている。



AGLOC代表
阿部 大樹 ABE Daiki
農学部 資源生命科学科 3年

神戸大学農学部では、地域連携事業の一環として「実践農学入門」という授業を開講している。兵庫県篠山市の提携農家のもとで、学生が一年間農業に取り組みながら課題を見つけ、アプローチしていくというもの。この授業から派生したのがAGLOC。2016年・17年と2年連続で農林水産省主催「食と農林漁業大学生アワード」においてファイナリストに選出された注目の農業ボランティアサークルだ。

AGLOCを立ち上げたきっかけは?

阿部 実践農学入門の授業で農業を体験して、実習先の篠山市の岡野地区に何かできることはないだろうかと考えていました。そんな時に、神戸大の留学生から農業活動に参加したいという声があり、留学生とともに活動する農業ボランティアサークルを立ち上げたいです。僕たちの活動理念は「地域と世界をつなぐ」。今日日本の農業は停滞し、斜陽産業として認識されている一方で、世界の食産業の需要はとも伸びています。そこで、留学生とともに農村と世界をつなげることで、日本の農業に少しでも貢献できればと考えています。



AGLOC 会計
徳富 秀輔 TOKUTOMI shusuke
発達科学部 人間環境学科 3年

ベトナムと台湾に行つて日本の農家との違いを学び、豊泰支援の参考にしています。徳富 「世界から地域」に向けては、まずは留学生と地域の方々と交流を深めること。ウェルカムキャンプや地元の小学校との交流会、地元の祭りへの参加などで接する機会を作っています。阿部 というのも、設立当初、すべての農家さんが留学生を歓迎してくれたわけではなかったんです。だからこそ、交流の機会を設けて異文化への理解を深めたいと、僕たちの活動を理解してもらいたいと、1年半ずっと考えて実行してきました。最近では、活動に参加する農家さんが増えてきた実感がありますね。徳富 英語を勉強して留学生と積極的に交流しようとする農家さんも、増えてきたんですよ。阿部 それから、神戸大学の国際教育総合センターが、留学生に日本への理解を深めてもらうため遠足などのイベントを企画しているの、僕たちがガイドとして、篠山

徳富 AGLOCは農学部を中心に、経済学部などの他学部の学生も多く参加しています。経済の視点から篠山について考えていくというの、なかなか楽しいです。活動内容はどのようなことを?

阿部 メインは農業ボランティアです。今、岡野地区の約16戸の農家さんと提携している、月に一度、農作業を手伝っています。徳富 篠山という土地柄、黒大豆などの豆類やヤマノイモの栽培を手伝うことが多く、1年を通じて畑を耕すところから収穫まですべて関わっていきます。この1年半で20回ほど農業ボランティアを行ってきました。

プリム 私のもう一つは「ヤマノイモのパンケーキ」。留学生のアイデアを参考にレシピを開発し、レシピ冊子を岡野地区の全戸に配布。地域のイベントで、ヤマノイモパンケーキの店を出店するうちに、徐々に「作ってみよう」という声が増えて、地域の方が祭りの時などに作ってくださるようになりました。

徳富 この1年半で大勢の留学生の参加がありました。22か国、81人がこの篠山の地に来てくれたんです。阿部 他には、篠山の伝統野菜、ヤマノイモを使った特産品の開発にも取り組んでいます。徳富 ヤマノイモは栽培に手間がかかり、収入に見合わないと年々栽培農家さんが減っているのが現状。そこで、付加価値をつけられ



延べ22か国・81名の留学生が参加

への来訪をサポートしています。また、マッチングアプリを介して、訪日外国人の京都市内観光のガイド役も務めています。観光補助の活動を通じて、ゆくゆくは篠山へのインバウンド誘致につなげたいです。「世界と地域の双方向」については農業ボランティアを活動の軸として、世界から来てくれた留学生が篠山に定期来訪し、国内・海外に向けて情報発信してくれることを目指しています。プリムも篠山での農作業の様子や風景などを動画に撮って、英語で発信してくれています。プリム より多くの人に活動を知ってほしいし、参加してもらえたら嬉しいんです。これまで動画での情報発信はしていなかったの、面白い試みだと思っています。徳富 今も撮影し続けていて、篠山市の動画大賞に応募する予定。プリムの目に映る篠山を発信していきます。阿部 留学生が篠山や農業に興味を持ってくれば、動画を撮るといふアクションを起こしてくれたことは一つの成果だと感じています。



タイからの留学生 通称「プリム」
アナンタウィッタヤノン スクリーター
農学部 食料環境システム学科 1年 Anantawittayanon Sukritta

ないかと考えて特産品の開発に至りました。阿部一つはヤマノイモで作った、かるかん「Chokobe(チョコベ)」という商品。農村地域の課題解決を行う神戸大学の篠山フィールドステーションとともに開発を進めていきました。地域の和菓子店が製造し、店頭で販売しています。ゆくゆくは流通にのせられればと考えています。徳富 もう一つは「ヤマノイモのパンケーキ」。留学生のアイデアを参考にレシピを開発し、レシピ冊子を岡野地区の全戸に配布。地域のイベントで、ヤマノイモパンケーキの店を出店するうちに、徐々に「作ってみよう」という声が増えて、地域の方が祭りの時などに作ってくださるようになりました。

活動の方向性は?

阿部 僕たちの働きかけは「地域から世界に」、「世界から地域に」、「地域と世界の双方向」の3方向に向かっていきます。「地域から世界に」に向けた活動の一環として、農業の閑散期には海外に農業視察に行きます。これまで

今後の目標は?

阿部 「地域と世界をつなぐ」というコンセプトを掲げている以上、農家さんに貢献した実績を残せるようにしたいです。そうなる、特産品開発と情報発信が鍵になってくる。軌道に乗れば、新しい活動の軸になると考えています。プリム 特産品を外国人観光客に紹介してみるのは?実際に食べてもらって、感想を動画に撮ってネットにアップしたら動画サイトで人気が出るかもしれない。徳富 なるほどー彼女のように、積極的に提案してくれる留学生が増えてくれると嬉しいですね。阿部 僕たちは農業支援のプロではありません。でも、学生ならではの視点で地域貢献につながるものがきつとあると思う。大きな利益は見込めないかもしれないけれど、楽しくできることを模索していきたいです。だから、農業に興味がある、特産品を開発したい、留学生と交流したいなど、どんなきつかけでもAGLOCの活動に興味を持ってくれた人は、ぜひ足を運んでほしいですね。



公式マスコットキャラクター「神大うりぼー」が誕生!

平成29年に、神戸大学の公式マスコットキャラクター「神大うりぼー」が誕生しました。神大うりぼーは、学生向けポータルサイト「うりぼーポータル」のキャラクターとして以前から使用されていましたが、このたびデザインをリニューアルし、正式に大学のキャラクターとして活動していくこととなりました。

大学生協の購買各店およびwebサイトに、クリアファイルやボールペン、ぬいぐるみなどのグッズを販売しています。また、学生広報チームがデザインを考案したLINEスタンプも好評発売中です。是非応援をよろしくお願いいたします。

神戸大学に住み着いて
いるイノシシの子ども「うり坊」。
スイーツが大好きで、趣味はお菓子作り。
おしゃれも好きだけど、ダイエットに励んでいます。
好奇心旺盛で、
神戸大生のキャンパスライフに興味津々!



LINEスタンプも発売



オフショアセーリング部が世界大会で優勝しました! Student Yachting World Cup 2017

10月16日から10月22日の日程で、フランスのマルセイユ・フリウル島で開催された大型ヨットの学生世界選手権「Student Yachting World Cup 2017」で、神戸大学オフショアセーリング部が優勝しました。日本チームの優勝は初めてであり、ヨット強豪国の多いヨーロッパ勢の中での優勝は快挙です。

神戸大学チームは、海事科学部生9名と農学部生1名(内3名女子)の構成で参加。初日は中位の総合順位に位置していましたが、徐々に順位を上げ、大会4日目には総合3位になりました。そして、大会5日目には1位~3位までが1点差に並ぶ接戦となり、翌日のレースでは上位3チームの熾烈な3つ巴のレースが展開され、追い上げを見せた神戸大学チームが競合する2校をかわし、見事総合1位に踊り出しました。上位2艇は英国艇で、セーリングの盛んな英国において、質、量ともに厳しい国内予選を勝ち抜いてきたチームであり、そのチームと対等に戦えたことは素晴らしいことです。



国際人間科学部同窓会の名称について

国際文化学部と発達科学部が統合された新設の国際人間科学部に本年春384名の新生を迎えました。私たち同窓会に関わる者としては、新学部の更なる発展を大いに期待しつつ同窓会活動の一層の充実に努力を惜しまない決意です。

新学部同窓会は、国際文化学部同窓会「翔鶴会」と発達科学部同窓会「紫陽会」の会員を引き継ぎ、名称は新たに国際人間科学部同窓会「紫陽会」と称することとなりました。

(国際人間科学部同窓会「紫陽会」)

読者の皆様へアンケートのお願い

神戸大学広報誌『風』10号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

- 1.どの記事に関心を持たれましたか
- 2.その記事についてどのような感想を持たれましたか
- 3.今後読みたい記事
- 4.その他何でもご感想を

アンケートの回答は神戸大学広報課のメールアドレスをお願いします。

✉ ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp
※ご職業、年齢を書き添えていただくと幸いです。

WEBフォームもありますので
今すぐアクセス!



日々情報更新中!



神戸大学公式 Twitter
「@KobeU_PR」



神戸大学公式 Facebook
「神戸大学_Kobe University」



「フォロー」「いいね!」
お願いします。

海事科学部創基100周年記念式典を開催しました。

平成29年10月28日(土)、深江キャンパスにて、海事科学部創基100周年記念式典を開催しました。

式典には、来賓、神戸商船大学及び海事科学部の卒業生、企業団体の関係者、教職員など約300名が出席しました。

武田廣学長の式辞、内田誠海事科学部長挨拶の後、義本博司文部科学省高等教育局長より祝辞をいただきました。

続いて、寺島紘士公益財団法人笹川平和財団参与による「海洋ガバナンスにおける神戸大学の役割」と題する基調講演が行われました。

基調講演に続き、「海事科学部100年の歩み」と題する講演が行われ、第1部「写真で振り返る100年の歩み」では、福岡俊道海事科学研究科教授が写真を用いて、海事科学部の前身である私立川崎商船学校から、神戸高等商船学校、神戸商船大学、そして現在の神戸大学海事科学部に至るまでの100年の歴史を紹介しました。第2部「神戸商船大学の21世紀の戦略と神戸大学との統合」では、原潔神戸商船大学元学長より、当時ビジョン21と呼ばれていた大学改革、IAMU(国際海事大学連合)の設立を中心とした国際交流、さらには神戸大学との統合に至った詳細な経緯について講演いただきました。

式典終了後の祝賀会では、内田学部長による挨拶の後、吉田

稔国土交通省神戸運輸監理部長、山本勝海洋会会長、及び小見山純郎海神会会長より祝辞をいただき、井上篤次郎神戸商船大学元学長の乾杯の発声で始まり、祝賀会の最後には、海事科学部の更なる発展を祈念して、杉田英昭神戸商船大学元副学長の発声により出席者全員で万歳三唱し、盛況のうちに幕を閉じました。



体育会サッカー一部創部100周年記念行事を開催 — 交流戦・記念式典・祝賀会・記念誌 —

神戸大学体育会サッカー一部は、神戸大学の創立基盤である神戸高等商業学校に蹴球部が創設された1917年を起点として、本年で100周年を迎え、9月9日(土)に記念行事を挙りました。

午前中の交流戦では、晴天の鶴甲第1キャンパスグラウンドに、年齢を重ねてもなお情熱を失わない約100名のOBが集い、78歳を最高齢に6チームに分かれ、残暑のなかで気持ち良い汗を流すとともに先輩後輩とのプレーを楽しみました。

記念式典では、出光佐三記念六甲台講堂に約300名が参列しました。吉井昌彦部長と長木義明OBクラブ会長の式辞、水谷文俊理事総括副学長挨拶に続き来賓から祝辞をいただき、甲田聡史現役主将から次の100年に伝統を引き継ぐと力強い宣言がありました。記念講演は92歳のサッカージャーナリスト賀川浩先

輩による「神戸大学と日本のサッカー」でした。6名の日本代表、2名のリーガーを輩出し昭和11年と昭和21年には関西リーグ優勝をなし学生日本一にあと一歩まで迫ったという栄光から、現在に至る奮闘と伝統を紹介する内容でした。式典の最後に「商神」斉唱のあと万歳三唱で締めくくりました。

記念写真撮影の後に、アカデミア館BELBOXに祝賀会会場を移し、来賓、招待客と年代毎にテーブルを囲み旧交を温めるとともに登壇者の話芸等で盛り上がりしました。

この行事にあわせて、100周年記念誌を上梓し、昭和42年に仮にまとめられていた前半50年史に加えて、古い記事発掘や各年度主将等の寄稿、座談会記事を4年間にわたり積み上げた労作で参加者全員に配布されました。





「学理と実際の調和」——神戸大学の理念です。ただ学問や研究を深めていくのみではなく、その成果を積極的に社会に還元し、世の中の課題を解決していきたい。今号の特集は、神戸大学発ベンチャー企業の創業期支援を行う「株式会社科学技術アントレプレナーシップ」。神戸大学の最先端の研究を社会に届ける取り組みをご紹介します。

(広報課)

風 Dec.2017
Vol.10

発行日/2017年12月

編集・発行/神戸大学総務部広報課

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL/078-803-5083

FAX/078-803-5088

アートディレクション・デザイン/有限会社テタリエイション

印刷/能登印刷株式会社

©2017 神戸大学

※本誌に掲載されている記事、写真、図表の無断転載を禁じます。